

●三位一体後第二十三主日

泉のほとり

今月の詩編 「第三十七編」

主に従う人は、口に知恵の言葉があり

その舌は正義を語る。

神の教えを心に抱き

よろめくことなく歩む。



彼らのためにお願いします

主イエスは天を仰いで言われました。「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に栄光を与えてください」と。父が定められた時。主イエスの生まれる時からのすべての時が、肥えた、傷のない、子羊のように備えられ、ささげられるためにあつたのです。そして、神に従い、人のためにご自身を惜しまれなかつた御子だからこそ、神が「すべての人を支配する権能を与えられ、子に永遠のいのちを与える権限がある」とされたことに、心から「アーメン」と賛美をささげるものです。

主は祈られました。「父よ、今、御前でわたしに栄光を与えてください。世界が造られる前に、わたしがみもとで持つていたあの栄光を」と。しかし、今、主イエスを待ち受けているのは「栄光」ではなく十字架という「恥辱」でした。しかし、私たちは知っています。主が受けられた恥辱こそ、人への命、人の命、感謝と賛美と栄光であることを。私たちは神がなされたその栄光なる御業を感謝をもつて見るのです。

そして、この世でどのようなことにさらされても、神のもとのその栄光を見る。その栄光に代わるものはない。十字架を前にし、それを切に願われる主がおられたことを心に刻みたいのです。

主は弟子たちのために願われました。「わたしに与えてくださったものはみな、あなたからのものであることを、今、彼らは知っています。なぜなら、わたしはあなたから受けたことばを彼らに伝え、彼らはそれを受け入れて、わたしがみもとから出て来たことを本当に知り、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです」と。

御言葉を聞かず、聞いても受け入れられない人、信じない人は、つまずいて離れていくか、敵対し、キリストを退けようとしたのです。しかし、弟子たちは主からのことばを聞き、霊的な目が開かれ、人から出たもの、神から出たものを見分け、神からのものを受け、喜び、信じ、自らを改め、なお神のことばを聞き、更に神からのもので満たされ、喜んだのです。主イエ

スの御心に彼らがいかに尊く、宝であつたか。御言葉を受け、信じ、変えられる彼らを見て、父のものであることが日々確かめられることに、主イエスは日々の労苦、「産みの苦しみ」をもお忘れになられたのではないかと想像します。

今その弟子たちのために祈つておられます。「彼らのためにお願いします。世のためではなく、わたしに与えてくださった人々のためにお願いします」と。およそ3年と言われている主の「時」に、彼らを教え、導き、守つてこられました。今やご自身のすべてを注いで、守つてきた主の弟子たちを、地上に残していけるのです。しかも、守つてきた彼らを受け付けていたのは、彼らを噛み裂く狼どもです。弟子たちがそのような目に遭うのは、主イエスご自身に従うゆえに、ということでもあります。彼らの弱さをもご存知です。「悪い者から守ってください」と祈られました。

ご自身が受けられる苦難を知つておられるからこそ、彼らを受ける苦難は避けられないことを、またいかなる忍耐の時を通り抜けなければならないかをも知つておられるのです。主は「悪から守ってください」と祈られました。悪しき者たちによる迫害に遭わないようにと祈られませんでした。彼らを受け付けている敵しい道で、ご自分のように最後まで通り抜くことができるようにと、「守ってください」と祈られたのです。そのようにして彼らも十字架による勝利に共に与るようになります。キリストのよい業に生き、それゆえに恵みに与る人を見て喜ぶ。父と子が一つの御心でなされた聖なる犠牲によつて、生かされる命を見て、喜びで満ち溢れていたその喜びに彼らも一つになって与るようにとされたのです。その信仰の道を生き抜き、勝利と栄光に与らせるよう、「悪から守ってください」と祈られたのです。

主イエスの十字架を愛していきましよう。十字架を前にし、人の弱さや苦難、忍耐を同情できない方ではない、知つておられる主イエスの祈りが、「悪から守ってください」と、今も信仰の道に励んでいる者たちのためになされています。

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○ 本日の礼拝後、地下ホールで讚美集会と信仰者に学ぶ会を行います。聖書、讚美歌をお持ちの上、ご参加ください。

○ 運営委員会、各小委員会がそれぞれ行われます。

○ 昨日は雨模様の中、墓苑礼拝が無事行われ、島田和子姉と野中君子姉の納骨を行いました。

《ぶどうの会より》

本日のぶどうの会は休会です。

《教育奉仕委員会より》

二〇二四年度「証しと祈りの会」発表者募集の書面を皆さまのポストへ配布させて頂きました。募集締め切りは一月三〇日です。

皆さまの応募を心よりお待ちしております。

《成長感謝礼拝のお知らせ》

次週、一月一〇日の子ども礼拝は、礼拝堂にて成長感謝礼拝としてお捧げいたします。

大人の皆さまも一緒に、神様が教会にお与えくださっている子どもたちを神様に感謝し、成長を祈っていただきたく、ご案内を申し上げます。時間は九時一〇分からの約四〇分間です。

《ミニバザーより》

次週、一月一〇日は、ミニバザーとして最終の販売を行います。地下ホールでの交わりの会の後、あまり時間をおかず開催します。紳士向けの品も多数あります。お待ちしております。

《ジュネーブ教会信仰問答》

第二十一聖日

問二二八 悔改めとはどんなことですか。

答 それは神へのおそれから生まれてくる、悪に
対する嫌悪と善に対する愛であり、またそれ
は、われわれをしてわれわれの肉の勢力を失
わせるように誘導し、われわれが聖霊によつ
て支配され導かれて、神に仕えるようになら
せるのであります。

問二二九 これが、キリスト者の生活についてわれわれ
が述べておいた第二点です。

答 その通りであります。そして神に対する真の
正しい奉仕は、われわれがみ心に服従するこ
とにあると申し上げた通りであります。

問二三〇 何ゆえですか。

答 神はわれわれの気まぐれで仕えられることを
お望みにならず、神が喜ばれるように仕える
ことを、望まれるからであります。

問一三二 神はわれわれを誘導するために、どんな
規範をお与えになりましたか。

答 神の律法です。

問一三三 その内容は何ですか。

答 それは二つの部分に分けられます。第一
は四つの戒めを含み、他は六つで、合計
十の戒めからなっております。

問一三四 その分類は誰がしたのですか。

答 神ご自身です。神はそれを二枚の板に記
してモーセにお与えになり、それは十の
言葉に要約されているといわれたのであ
ります。

問一三五 第二の板の要旨は何か。

答 神を正しくあがめる方法についてであり
ます。

問一三五 第二の板の要旨は。

答 われわれが隣人と、どのように生活すべ
きであるかということ、彼らに対して
われわれはどのような義務を負うかとい
うことであります。

《今日の子ども礼拝》

説教 「あなたはメシア、生ける神の子です」

聖書 マタイ16章13〜17節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・礼拝堂)

説教 「成長させてくださる神」

聖書 一コリント3章6〜9節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

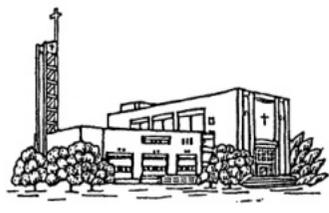
●主日礼拝(午前10時30分)

讚美歌 8番 251番

説教 「ステファノの逮捕」

聖書 使徒6章8〜15節

説教者 宮間彰広兄





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 196番 448番
説教 「真理によって聖なる者に」
聖書 ヨハネ17章16～26節(新約 P.202)
司式 石川一兄
聖餐司式 黄允湜 牧師
説教者 黄允湜 牧師

前奏曲「いざやともに」H.ヘルツォーゲンバルク

○讃美歌196番

1. うるわしきは 神のみとの

きよき愛のみてる宮よ
こころは み神を慕いて 燃え立つ

2. あめにとどく いのりの家

つかえまつる このよろこび
行かばや うたごえ合せて み前に

3. くらき谷も 恐れもあらし

あまつみ国 われを待てば
ひかりは 栄の御座より さしいず

4. したいまつる 愛の神は

このみとのに のぞみたもう
たたえよ 心のかぎりに みいつを
アーメン

○聖歌隊による讃美

「永遠にたたえよ」 J.P.Sweelinck 曲
永遠(とわ)にたたえよ
み神のみ名を
高く歌え
み栄あれと
地の果てまでも
みわざたたえよ

○讃美歌 448番

1. みめぐみを身にうくればわれらも今はつよし
みちからによりたのみて みいくさのさきにたたん
※(くりかえし)

いざすすめ たゆみなく いざうたえ こえたかく
みことばにしたがいて われらも今はつよし

2. 身も霊もささげまつり ただ主の御旨に生きん
よろこびで仕えまつり いさましくわざをなさん※

3. きよからぬ思いを去り ただ主のみむね学ばん
まごころをこめて仕え 御国をば世にきたさん ※
アーメン

聖餐曲「まことなるみ神を」G.ペール

後奏曲「アルビノーニによる協奏曲」J.G.ガールター